

# 横浜

**横浜総局**  
Y231-8504  
横浜市中区日本大通15  
☎ 045-691-6101  
fax 045-641-9998  
mail kanagawa@asahi.com

**田園都市支局**  
Y225-0011  
横浜市南区あざみ2-12-5  
☎ 045-904-9010  
fax 045-904-9020

川崎 ☎ 044-244-4306  
相模 ☎ 0468-26-4911  
厚木 ☎ 046-221-3300  
横浜 ☎ 046-822-0211  
鎌倉 ☎ 0467-22-0123  
小田 ☎ 0495-22-8758  
相模原 ☎ 042-752-3150  
平塚 ☎ 0483-35-3246

## 写真から「音」が聞こえる

### 聴覚障害のある宮本さん、初の作品展



●作品を前に、費用のデジタルカメラを手にする宮本涼子さん  
●付近の川などを撮影する宮本涼子さん(右)  
見守る竹田英雄さんは手話でアドバイスする(いずれも横浜市泉区)

聴覚障害がある横浜市港北区の宮本涼子さん(右)が、同市都筑区のカフェ「レジオン」で、初の写真展を開いている。外が怖くて引きこもりがちだった生活を変えようと、カメラを手にして5年。「日本を代表する女性写真家」を目指し、第一歩を踏み出した。(斎藤博美)

### デジカメ手に夢へ一歩

さのさりと流れる川のせせらぎ、竹やぶを吹き抜ける一筋の風……宮本さんの写真からは、さまざまな「音」が聞こえてくるようだ。けれど宮本さんは、2歳の時、聴

力を失った。小中学校は普通学級に通い、会話は、相手の唇の動きを読んで理解した。手話を覚えたのは通信制の高校に入ってから。人とのコミュニケーションがうまくとれず、引きこもりがちの生活を送っていた。しかし22歳の時、障害者のパソコンの相談員をしていた竹田英雄さん(42)に出会い、カメラを勧められる。自らも「多発性硬化症」という難病と闘い続けてきた竹田さんに影響を受け、宮本さんは「写真家になる」という夢を見つけた。

### 支える「すごい感性」

宮本涼子さん

ここ半年ほどですばらしい写真が増え、作品展の開催を決めたという。竹田さんは「竹の若々しい感じ、流れる雲の立体感など、一瞬を切り取る力がすごい。聞こえないからこそ見える世界をとらえていると思います」と話す。

8月までに30カ所の作品展開催を目標にしている。

「いい写真が撮れた時の達成感がうれしい」とほほえむ宮本さんは、いつかもっと高性能のカメラやレンズを使って、作品作りに励みたいと考えている。

夢は始まったばかりだ。

カフェ「レジオン」(横浜市都筑区中川中央1丁目37の23)での作品展は10日まで(4日休み)。横浜ラポール内のレストランや、東京・府中市の古本屋でも順次開催を予定しているが、その後の開催場所も夢っている。問い合わせはハートフルパワー(045・800・3317)へ。

2009年3月4日(木) 朝日新聞(神奈川県版)